

## 「マルタとマリア」

ルカ 10 : 38～42

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①前回到続いて、この箇所はルカだけの記録である。
- ②70人の派遣、永遠のいのちに関する律法学者との議論(良きサマリヤ人)
- ③そして、マルタとマリアの話へと続く。
- ④ルカは、イエスに仕えた婦人たちについて記録している福音記者である。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

「マルタとマリアの家の客となるイエス」 (§104)

ルカ 10 : 38～42

### 2. アウトライン

- (1) 安らぎの家 (38～39 節)
- (2) 苛立ちの家 (40 節)
- (3) 権威ある言葉 (41 節)

### 3. 結論 :

- (1) 優先順位 (1)
- (2) 優先順位 (2)
- (3) 正しい優先順位の結果

マルタとマリアに語られたイエスのことばから、霊的教訓を学ぶ。

## I. 安らぎの家 (38～39 節)

### 1. 38 節

Luk 10:38 さて、彼らが旅を続けているうち、イエスがある村に入られると、マルタという女が喜んで家にお迎えした。

- (1) ある村とは、ベタニヤである (ヨハ 11 : 1、12 : 1～3)。
  - ①エルサレムから約3キロ離れた所にある村。
  - ②オリーブ山の東山麓に位置する。
  - ③最後の過越の祭りの際の訪問とは、別のものである。

- (2) イエスを迎えたのは、マルタである。

- ①マルタ、マリア、ラザロの3人はベタニヤに住んでいた。
- ②マルタとマリアが初めて登場する。
- ③マルタがイエスを迎えているので、一家の主人であったと思われる。
- ④この家は、70人の派遣によって用意されたものである可能性がある。
- ⑤イエスは、この家に留まった。それ以降も、ここに泊まることを好まれた。

## 2. 39節

**Luk 10:39** 彼女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた。

### (1) マリアの姿勢

- ①主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた。
- ②これは、弟子が師から学ぶときの姿勢である。
- ③将来自分が師になって弟子に教えようとする者は、このような姿勢を取った。

### (2) 婦人の役割に関する伝統的なイメージが覆される。

- ①婦人は、教師にはなれない。だから専門的に学ぶ必要はない。  
(例話) 2世紀に、高名なラビの娘がいた。博学なラビと結婚した。  
ほとんどのラビたちは、彼女の意見を受け入れなかった。
- ②マリアは、伝統的な婦人の役割を捨てて、イエスの教えを吸収しようとした。
- ③イエスは、彼女の学びの姿勢を受け入れた。
- ④その様子を見て、男性たちはショックを感じたことであろう。

## II. 苛立ちの家 (40節)

### 1. 40節 a

**Luk 10:40a** ところが、マルタは、いろいろもてなしのために気が落ち着かず、

- (1) マルタは、伝統的な婦人の役割に徹した。
  - ①客をもてなすのは、主人の責務である。
  - ②客は、少なくとも13名はいた。イエスと弟子たち。
  - ③中東風のおもてなし

### (2) 訳文の比較

「ところが、マルタは、いろいろもてなしのために気が落ち着かず、」(新改訳)

「マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、」(新共同訳)

「ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心を取りみだし、」(口語訳)

「マルタ饗應(もてなし)のこと多(おほ)くして心(こころ)いりみだれ、」(文語訳)  
「一方マルタはというと、てんてこ舞の忙しさです。『どんなごちそうで、おもてなし  
しようかしら。あれがいいかしら、それとも……。』気を使うことばかりです」(リビング  
バイブル)

## 2. 40節b

Luk 10:40b みもとに来て言った。「主よ。妹が私だけにおもてなしをさせているのを、何とも  
お思いにならないのでしょうか。私の手伝いをするように、妹におっしゃってください。」

### (1) マルタの自己義認の態度

- ①自分は正しいことをしている。
- ②他の人はそうではない。
- ③自己義認は、怒りの感情を生む。
- ④怒りやすい人は、怒りの理由について考えるとよい。

### (2) マルタの怒り

- ①最初は、妹のマリアに向けられた。
- ②次に、マリアの怠惰を放置しているイエスに向けられた。
- ③イエスをもてなそうとしたのに、イエスを批判するようになった。

## III. 権威ある言葉 (41節)

### 1. 41～42節a

Luk 10:41 主は答えて言われた。「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、  
気を使っています。」

Luk 10:42a しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです」

### (1) イエスは、マルタをたしなめた。

- ①一時的なことに気を取られて、動転してはならない。
- ②ものごとを大局的に見ることを教えた。

### (2) どうしても必要なことは、一つだけである。

- ①メシアの教えを受けることは、メシアに仕えることよりも重要である。
- ②ともに良いことであるが、メシアの教えを受けることを優先すべきである。

## 2. 42節b

Luk 10:42b 「マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません

ん」

- (1) イエスは、マリアを擁護された。
  - ①イエスは、婦人がみことばを学ぶことを奨励された。
- (2) マリアは、良い方を選んだ。
  - ①彼女は、弟子たちでさえも理解できなかったことを学んだ。
  - ②イエスは、死のうとしておられる。

結論：

### 1. 優先順位 (1)

- (1) 与えることと、受けること
  - ①マルタは、イエスに与えようとした。
  - ②マリアは、イエスから受けようとした。
  - ③ともに良いことである。
  - ④しかし、イエスから受けずして、他者に与えることは難しい。
  - ⑤それゆえ、マリアの選びの方がよい。
- (2) 行為と、内面の状態
  - ①イエスに与えること（奉仕）の中には、傲慢の種が混入する可能性がある。
  - ②傲慢の種が芽を出し成長すると、他者への裁きという実を付けるようになる。
  - ③イエスから受けること（静思）は、傲慢の種を取り除く作業である。
  - ④傲慢の種が取り除かれると、聖霊の実を付けるようになる。

### 2. 優先順位 (2)

- (1) 良きサマリヤ人のたとえ話と、マリアの選び
  - ①十戒の5戒～10戒は、隣人への愛を教えている。
  - ②十戒の1戒～4戒は、神への愛を教えている。
- (2) 優先順位は、神への愛、そして、隣人への愛である。
  - ①キリストとともに時を過ごした人は、キリストの香りを放つ。  
（例話）アロマオイルのそばにおいたキーホルダーの香り
- (3) 神への愛を確認できた人は、平安に、静かに、親切に隣人に仕えるようになる。

3. 正しい優先順位の結果

(1) マリアは、イエスが死のうとしていることを理解した。

(2) マリアは、イエスに香油を注いだ。

①マタ 26 : 12~13

Mat 26:12 「この女が、この香油をわたしのからだに注いだのは、わたしの埋葬の用意をしてくれたのです。

Mat 26:13 まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう」

②今も、マリアの行為は世界中で語り継がれている。

(3) イエスの死を理解したことは、イエスの復活を理解したことでもある。

①マリアは、兄弟ラザロの蘇りを体験するようになる(ヨハ11章)。

②彼女は、他の婦人たちといっしょにイエスの墓には行かなかった。

(4) 神の計画を理解した人だけが、自分の働き場を見い出すことができる。